

水素混焼バーナーを実証

アスファルトのCN実現へ

大林道路は、アスファルト混合物の製造過程でドライヤ燃焼バーナーによる骨材乾燥・加熱時のCO₂排出量を削減するため、都市ガスなどに代替燃料となる水素を組み合わせた混焼バーナーの燃焼実証実験に着手する。カーボンニュートラル（CN）を実現する再生可能エネルギーの活用として早期実用化を目指す。実証実験では、大林組が大分県九重町で製造している地熱発電グリーン水素を活用する。

のCO₂排出量低減が可能となり、アスファルトプラント全体のCN実現に大きく貢献できる。

燃焼実証実験は、2段階に分けて検証する。第1段階は燃焼バーナーと付帯設備などの構造検討のための実証実験を行う。第2段階は、骨材加熱効率率の実証実験を機械センタ―実験プラント、実験アスファルト混合所における実証実験を九州支店大分センターアスコンなどで行う。

加熱アスファルト混合物の製造過程におけるエネルギー消費は、燃焼バーナーでの骨材乾燥・加熱プロセスが大半を占め、多くのCO₂が排出される。

そのため、燃焼バーナーで水素と都市ガスなどの従来の使用燃料と混焼することによって、骨材乾燥・加熱過程で

同社は、カーボンニュートラル推進プロジェクト・チームを立ち上げており、リーダーを務める本店合材事業部・機械部の浦邊寛部長は「企業価値向上のためにも、重要な取り組みになる」と話す。

アスファルトプラントにおけるCO₂排出量削減は、我が国が2050年までにCNを実現するための課題の一

つ。大林グループも喫緊の課題と認識しており、再生可能エネルギーの活用を加速し、CNの実現に取り組む。

